

二〇一三年度 第一回 入学試験問題(国語)

* 答えはすべて解答用紙に記入すること。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今の報道機関は、人々に大きな影響を与えていました。これは、報道に接した人の多くが、報道の内容を「眞実」のものだと認識する」とが原因です。

それに關して、二〇世紀半ばに活躍した著名なジャーナリストのウォルタ・リップマンは、第一次世界大戦中の新聞報道の分析などを通して、①人々が物事に対して描くイメージが、報道によって大きく影響を受けたこと、を述べています。リップマンは、人間が現実を認識する際、現実そのものを認識するのではなく、現実に対するイメージを頭の中で作り上げた上で現実を認識する、として、そのイメージを「疑似環境」と呼びました。そして人間は、現実に対してもなく、この疑似環境に対しても反応する、と指摘したのです。

さらに彼は、人間の頭の中でこうした疑似環境が形成される際、報道が大きな役割をはたしている、と語っています。しかし実際には、報道されたものごとは、事実そのものではありません。報道は、社会状況の全体像を映し出す A ではなく、その一面を切り取つたものに過ぎません。それにもかかわらず人々は、報道されたことが現実そのものだと認識してしまう、と彼は説明したのです(『世論』(上))。

リップマンは、彼の新聞記者としての経験から、新聞やラジオの報道が、現実の一面しか描いていないことを②熟知していました。そこではまず、紙面の大きさや放送時間などの X があります。現実を、かぎられた長さの言葉や音声などで表現するわけですから、そこに表現されたものが現実そのものでないのは、当然のことです。さらに、記者やその上司たちの思い込みや考えなどが報道内容に③反映される、といったこともあります。

しかしほんどの人々は、それを「現実の環境」つまり現実の姿だと思い込んでしまいかがちです。そしてこれが、だんだんと人々の常識や知識となり、やがては社会の中に定着してしまった可能性がある、とリップマンは指摘したのです。

同じことは、現代の私たちにも当てはまります。多くの人々は、テレビや新聞、雑誌などで紹介されたことが、「眞実」と考えがちです。けれども実際には、それらは現実の一面でしかなく、別の面から見るとまったく別のこと�이える場合もたくさんあります。たとえば、ある事件が起きたとき、被害者の立場から見た報道と、加害者の立場から見た報道、あるいはその事件が起きた社会的背景について見た報道では、まったく内容が異なつてくるでしょう。しかし私たちが、特定の新聞記事やテレビ報道にしか接することがなければ、その事件に対する私たちの見方は、B になってしまいます。

それでは、〈眞実を知ること〉(私たち人間には、すべての関連情報をもれなく収集し、分析するという意味で、全体の眞実を知ることはできませんから、正確にいと、〈眞実に C こと〉はむずかしいでしょう。

その意味でも、ひとつの事件やできごとなどに関して報道を見聞きした際には、D で、そうした事件やできごとの評価をしていかなければなりません。

このように、私たちが報道に接する場合、それが、「状況やできごとの一面だけ」を描写 していることは、つねに心にとめておかなければなりません。

「犬が人を噛んでニュースにならないが、人が犬を噛めばニュースになる」。

これは報道というもののひとつの側面を、たとえ話で表現した言葉です。ここで問題になるのは、その事件が珍しいかどうかという点です。

犬が人を噛む事件よりも、人が犬を噛む事件の方が、起きる確率は高いでしょう。そのため報道機関は、どちらの方が被害が大きいかという点よりも、目新しさを考慮して、後者のような事件を報道することになります。ちだ、というのです。

その端的な(IIはつきりとしていてわかりやすい)例が、最貧困などで起きている「飢餓」に関する報道です。

国際的な援助活動を続けている「国連世界食糧計画」(WFP)によれば、現在、世界には飢餓に苦しんでいる人々が約九億二五〇〇万人もいる、といいます。これは世界の人口の八人弱にひとり、に相当します。

彼らの多くは、アフリカなどに特徴的な長期の干ばつは別として、地震や津波、火山の噴火や台風といった、比較的短期間に被害が発生する天災によって、日常生活が奪われたわけではありません。その地域のいびつな経済構造や長引く内戦など、社会の慢性的な欠陥によつて、飢えに苦しみ、その命を早期に終わらせているのです。

しかしこうした状況が、報道によつて紹介されることはほとんどありません。それは、飢餓があまりに慢性的な事態なので、斬新な映像や記事として表現することがむずかしいからです。しかし彼らは、飢餓に関する一見似たような映像や記事を発信しつづけた場合、視聴者や購読者がすぐにあきてしまふということも、同時によく知っています。大多数の人間は、つねに目新しい報道を求めるからです。これは、報道機関や媒体(IIメディア)に課された大きな X だといえるでしょう。

このように、非常に危機的な状況が存在していても、報道があまりなされないケースというものがあります。世界の重要なできごとがすべて報道されるわけではないこと。とくに④変化にとぼしい慢性的な状況であればあるほど報道がなされにくいことは、覚えておく必要があるでしょう。

問一 線部①「人々が受けた」とありますが、それはどういうことですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 「疑似環境」によって作り上げられた報道を、人々が現実だと思うようになったこと

イ 第一次世界大戦中の誤った報道を、人々が「眞実」ではなく「疑似環境」だと思ったこと

ウ 社会の一面を切り取つた報道をもとに、人々が頭の中に「疑似環境」を作り上げたこと

エ 人々の常識や知識が、報道によって社会の中に「疑似環境」として定着してしまったこと

問二 □Aにはどのような言葉が当てはりますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 絵画 イ 鏡 ウ テレビ エ カメラ

問三 線部②「熟知して」、③「反映される」の意味は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 十分に理解して イ 当然だと思つて ウ 正しく予知できて エ 誤りだと気づいて

②「熟知して」 イ 当然だと思つて ウ 正しく予知できて エ 誤りだと気づいて

③「反映される」 イ 良い結果を生む ウ 反論を加える エ 影響を与える

問四 二か所の□Xには同じ言葉が当てはまりますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 制約 イ 使命 ウ 自由 エ 義務

問五 □Bにはどのような言葉が当てはまりますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア とてもばらついたもの イ とても似かよつたもの ウ とても片寄つたもの エ とても現実ばなれしたもの

問六 □Cにはどのような言葉が当てはまりますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 従う イ 迫る ウ 至る エ 学ぶ

問七 □Dにはどのような内容の言葉が入りますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア それが「疑似環境」であることを認識し、うのみにしないこと

イ 特定の新聞記事やテレビ報道を徹底的に分析し、批判すること

ウ ほかの新聞記事やテレビ報道なども合わせて比較すること

エ 「眞実」といえるすべての報道を収集し、分析すること

問八 線部④「変化になされにくい」とありますが、それはなぜですか。五十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問九 次の一文は本文から脱落したものです。これを本文に戻すにはどこが適当ですか。この一文が入る直後の五字をそのまま書き抜きなさい。なお、句読点や記号なども一字に數えます。

【脱落文】「報道機関の職員たちも、多くの人々が飢餓状態にあることが、大きな問題であることはわかつています。」

問十 本文中には、反対の言葉を使ったことによつて意味の通らなくなつた一文があります。その一文の始めと終わりの五字をそのまま書き抜きなさい。なお、句読点や記号なども一字に数えます。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

東京のマンションに一人暮らしの亞季^{あき}は、仕事で大きなミスをしてしまつた。そんな時、長野県で消防士をしている父から、急に出張で泊めてほしいという連絡^{れんらく}が入つた。仕方なく父と待ち合わせて先に食事をすることにした。

「だけど、こつちに出張なんてこともあるんだね」私が尋ねた。
「調布の消防研究センターに、ちょっとばかり用事があつてな」

自分の親のことでありながらも、仕事の内容など詳しくは知らない。勿論、父が消防士であることは小さい頃から分かつていた。いつだつたか、火事の現場について尋ねた時、父は、「人様の災難を話すなんてことはできない」と首を振つて答えた。面白味のない人だが、それは真面目な父のよい面でもある。そういえば、小学生の頃、クラスメイトの男の子から「沢村、お前んちの父ちゃんに言つて消防車に乗せてくれよ」と①頼まれて困つたことがあつたつけなあ……。注文したおにぎりは、四角い皿に載せられて運ばれてきた。黄色い沢庵^{たくあん}が二切れ添えてある。

「なあ、亞季、お前、覚えているか」
父は感慨深げに手にしたおにぎりを見つめながら尋ねてきた。

「一度だけ、お前たちにおにぎりを、いや、お弁当を作つてあげたことがあつたなあ……」

「そんなことあつたつけ？」

「あつたよ。お前が小学校六年生で、久司が四年生の時の運動会だつた」

「運動会？　あつ……」私は思わず顔を歪めてしまった。

「あの朝、お母さんの悲鳴で目が覚めた。一瞬何が起きたのか分からなくてびっくりしたけど……。お母さん、ベッドから起き上がり途端にギックリ腰やつちやつてな。そのまま身動きできなかつた」

私も弟もぐっすり寝込んでいたので、まったく気づかなかつた。

「それでもお母さんは偉いな。お前たちのお弁当作るつて言つて台所に這つて行こうとしたんだから。でもどう見ても無理だつたし、ついオレが作るつて言つちやつたんだな。弁当つていうか料理だつて一度も作ったことなんかなかつたのに。で、一応お前たちに持たせてやることができたけど。後にも先にもあれが最初で最後の弁当作りだつたなあ」

「どこか②満足そうな顔で話をする父にはすまないけど、それはあまり思い出したくない想い出なのだ。

私は足が遅かつた。いや、中途半端に遅いというのが正しい。うちの小学校では、一着から三着までは、順位の数字が染め抜かれた赤い旗の列に並び、それ以外は白い旗の列に一緒くたに並んだ。何も一着などとは言わない。でも、一度でいいから、ちゃんと数字のある旗の列に並びたいと、ずっと思つていた。六年生の運動会で、そのチャンスが巡ってきた。組み合わせの③妙なのだが、予行練習では三着に入れた。私は密かに本番を心待ちにしていたのだ。

当日の朝、母が腰を痛め、運動会に来られないことを知つたときには、さすがにがつかりしたものだ。それでも父がビデオに撮つてくれれば、私の走りを母も見ることができるように、④一層頑張ろうと心に決めて登校した。

午前中のプログラムが終了して、昼食タイムになつた。食事はクラスごとに広げられたシートの上でとる。

「お父さんが作つたんだからな」

出がけに、そう言われて父から手渡されたお弁当の包みを、なんの躊躇もなく解いた。タッパーの中には、海苔に巻かれたおにぎりが二つと、卵焼き、ワインナーが無造作に入つていていた。それだけ聞けば、ごく普通の内容なのだが、それはふと目に入った他の子たちのそれからすると、酷く見栄えの悪く見えるものだつた。

「うだよ、これ、お父さんが作つたんだつた……。でもそれだけなら隠しながらでも食べていたかもしれない。ところが……。

「沢村のおにぎり、でつけー、ヘンな形つ」

目敏いクラスメイトの男子が、私のお弁当を背後から指差し、囁き立てた。

「なんかおなかいっぱい……」と⑤周囲に聞こえるように言い訳すると、蓋をして片づけてしまつた。

六年女子の徒競走は、二時半ぐらいに始まつた。スタートのピストル音が響く中、どきどきしながら順番を待つていると、グルルツとおなかが鳴つた。声援が飛び交い、音楽が流れていたにもかかわらず、それははつきりと聞こえた。お弁当を食べなかつたせいで、かなりおなかがすいていたのだ。

隣に座つていた雅代ちゃんが、「亜季ちゃん、おなかが鳴つた」と笑つた。その声につられるように、他のクラスメイトからも笑いがこぼれ、緊張の場が一気に和やかな雰囲気に包まれた。顔を紅くした私以外は……。

そんな恥ずかしさを引きずつたことと、きっとおなかがすいていたことも災いしたのだろう。スタートで出遅れた上に、力が出ずに挽回も叶わなかつた。結局五着に終わり、数字の染め抜かれた旗の列にならぶことはできなかつたのだ。そんな私の気持ちも何も知らず、ビデオカメラを向ける父に気づき、無性に腹が立つた。

私は下校の途中で、友達と別れると、お弁当の中身を道端の側溝に捨てた。⑥悔しくて、情けなくて、涙が出た。

父はひと口お茶を啜ると「お前、戻つて向こうで働くつもりはないか」と眞面目な顔で切り出した。

「えつ？」

「もし、そういうことも考えられるなら、お父さんが現役^{げんえき}の間に言つてくれ。大した力はないけど、現役の間なら少しは顔が使える」「何言つてんのよ、だいたい、どんな職を用意できるつていうのよ」

「いや、まあ、そうなんだが……」

「ほーら、いいかげんなこと言わないので。そりやあねハリウッド映画なら窮地に追い込まれた娘を颶爽^{さつそう}と、かつ勇敢に救い出すような、スーパーパパさんっていう設定もありかもしれないけど、実際、私の場合、⑦お父さんだもの……」

3

ちょっとと言いすぎた。そんな自覚があつた。

「まあ、そうだな、お前の力にはなれんか。心配するくらいが精々つてところだものな」父は淋しそうに目を伏せた。
すると、電子メロディーが流れた。お風呂が溜まつた合図だ。^⑧ 助け船が有りがたい。

「お風呂溜まつたから、お父さん、先に入つて。私はそつちの和室にお布団敷いておく」
「そうさせてもらうか。ま、老いては子に従えつてことだな。でも、子どものためにしてやれることが少なくなるつていうのも淋しいもんだ」

父はぼそぼそと言うと、「どうこいしょ」と腰を上げ、旅行鞄の中からグレーのスウェットを取り出した。

「私は、まだやることがあるんで、上がつたら、気にしないで先に寝ちゃつていいからね。あ、電気消すのだけ、お願ひ」

「おう」

軽く手を上げて脱衣所に向かう^⑨ 父の背中が妙に小さく見えた。いや、そうさせてしまつたのは私なのかも……。しかし、いくら親子といえども解決できないものもある。私だつて、父に手助けしてもらつてどうにかなるようなら頼つてみたい。

和室に父の寝床を用意し、私は自室に入つた。

しばらくすると、父が風呂から上がつた気配がした。

「無理せず、ちゃんと寝ろよ」ドア越しに父が声を掛けた。

「うん、分かつて」ドアを開けずに答えた。

「じゃあ、おやすみ」

「はい」

困つたことに、集中しようと思つてもそれができない。ベッド脇に置いた目覚まし時計の針の音はまるで催眠術師の言葉のように瞼を重くする。こんなことで眠つてたら……。だめじやない、私……。

自分のくしやみに驚いて目が覚めた。

「うわっ」いつのまにか、突つ伏して眠つてしまつていた。顔を載せた腕が痺れている。一体何時？

ええつ、朝？ あ、お父さんは？

我に返り、慌てて居間に出了。カーテンの隙間からオレンジ色の光が漏れている。周りを窺つたけど、父の気配はどこにもない。和室を見ると、布団がきちんと畳まれていた。

黙つて行つちやつたんだあ……。私は食卓の椅子に力なく腰掛けた。

すると、ラップの掛つたお皿があり、白く丸いものが二つ載つていた。おにぎりだ。そして、その脇に、メモ書きが残されていた。いや、これは手紙だ。

亜季へ

声を掛けたが、寝ているようだったので、そのままにしておいた。突然来て、泊めてもらつてすまなかつた。しかし久しぶりに亜季と話せてよかつた。

忙しいだろうけど、健康にだけは気を使うように。それからちゃんとメシを食え。腹が減つてはイクサはできぬだ。お母さんのように上手く結べないが、おにぎりを作つておく。

勝手に台所をあつちこつち探して、またお前に叱られそうだが、許せ。

残念ながら、親としてお前にしてあげられることは少なくなつた。これくらいのことしかできないが勘弁してくれ。

「お父さん……。おにぎりは三角形だつて知らないの？ もう、ばつかじやないの……」

可笑しくなつて、そんなふうに悪態をついた。

大きな口を開けてかぶりついた。少し塩っぽく感じたのは、父が塩の量を間違えたのではない。

「⑩今度はちゃんと食べるよ、ひとつも残さずに……」

父

夢うつつの中で何か物音がしていたような気がしたけど、それは夢ではなく、父が台所に立つていた音だつたのだ。

食卓の上のにおにぎりに手を伸ばす。それは運動会の日に作つてくれたものと同じように、なんとも大きくぶかつこうな姿をしている。

「お父さん……。おにぎりは三角形だつて知らないの？ もう、ばつかじやないの……」

可笑しくなつて、そんなふうに悪態をついた。

「⑪今度はちゃんと食べるよ、ひとつも残さずに……」

さい。

問一――線部①「頼まれて困つた」とありますが、それはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 父は無口で、娘の自分には、父がどのような仕事をしているのか分からなかつたから
- イ 父は眞面目な人であり、仕事に遊びを持ち込むようなことは頼めなかつたから
- ウ 父は面白味のない人なので、人を楽しませたりすることには興味がなかつたから
- エ 父は頑固で、自分がこうときめたら娘の頼みであつてもきいてくれるはずはないから

問二——線部②「満足そうな顔で話をする父」とありますが、この時の父の気持ちはどのようなものですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 娘のために何かしてやれたという良い思い出の一つをかみしめている

イ 一度も料理をしたことがないにしては、うまくできたと、得意に思っている

ウ 幼かつたころの娘の姿を思い出し、そのいとおしさを再確認している

エ 昔のこともしっかり覚えていることが、家族を思っていることの証明だと考えている

問三——線部③「妙」とありますが、どのような意味ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 混乱 イ おかしさ ウ 幸運 エ 結果

問四——線部④「一層頑張ろう」とありますが、この時の私の気持ちはどのようなものですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自分が旗の列に並べば、見に来ている父だけでなく母も喜び、具合もよくなるだろうという思い

イ 自分も旗の列に並びたいが、それ以上に、運動会に来られずに残念がっている母を喜ばせたいという思い

ウ 真面目な父が仕事を休んできているうえに、お弁当ももらったのだから、何とか父を喜ばせたいという思い

エ 母が来られず気落ちしたが、せつからく旗の列に並ぶチャンスなのだから、あきらめずにやろうという思い

問五——線部⑤「周囲に聞こえるように言い訳する」とありますが、この時の私の気持ちはどのようなものですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自分が旗の列に並べば、見に来ている父だけではなく母も喜び、具合もよくなるだろうという思い

イ 父に対する不満を、お弁当を食べないことで示そうとする気持ち

ウ 自分が男子の言葉に傷つけられたことを、だれかに気づいてほしいという気持ち

エ 見かけの悪いお弁当を人に見られないように、周りに対してとりつくろう気持ち

問六——線部⑥「悔しくて、情けなくて」とありますが、その理由として適当ではないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 旗の列に並ぶことができるチャンスだったのに思うように力を出せなかつたから

イ 父のせいでひどい目にあったのに、まったく気づいてくれないから

ウ 運動会に来られなかつた母のためにも活躍したかったのに、できなかつたから

エ 父の作ったおにぎりを、人目を気にせず堂々と食べてあげられなかつたから

問七——線部⑦「お父さんだもの……」とありますが、この後に続く内容を考えて十五字以内で書きなさい。

イ 以前の力強い頑固な父ではなく、老いておだやかになつたことに初めて気づいたということ

ウ 娘を手助けすることはできないと知つた父が、気落ちしてしまったように感じたということ

エ 父が自分で助けてはくれないと知つて、自分の中でその存在感が薄れてしまったということ

問八——線部⑧「助け船が有りがたい」とありますが、これはどのようなことですか。六十字以内でわかりやすく説明しなさい。

ア 線部⑨「父の背中が妙に小さく見えた」とありますが、これはどのようなことですか。次のア～エの中から最も

のを選び、記号で答えなさい。

ア 娘である自分が成長し、父の背だけを追いやってしまったことを改めて感じたということ

イ 以前の力強い頑固な父ではなく、老いておだやかになつたことに初めて気づいたということ

ウ 娘を手助けすることはできないと知つた父が、気落ちしてしまったように感じたということ

エ 父が自分で助けてはくれないと知つて、自分の中でその存在感が薄れてしまったということ

問九——線部⑩「今度はちゃんと食べるよ」とありますが、この時の私の気持ちはどのようなものですか。次のア～エの中から最も

も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 父がこりずにおにぎりを作つたことにあきれながらも、父の精いっぱいの愛情なのだから認めようとしている

イ 小学生の時は理解することができなかつた父の不器用な優しさを、ようやく素直に受け止められるようになつてている

ウ 小学生の時はいやな思いをしたが、今度は誰にも見られないでの、ぶかつこうでも食べようとしている

エ おにぎりで娘を助けたつもりになつてている父をあわれに思い、今度は自分が優しくしてあげようとしている

〔三〕次の①～⑧の一線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① ホケン証を医者に見せる ② 面会シヤゼツ ③ リサイクル運動のスイシン ④ タれ幕を取り付ける
⑤ コードをひもでタバねる ⑥ 裁判員のシユヒ義務 ⑦ 昔話のデンショウ ⑧ サンビ両論

第一回 入学試験解答用紙（国語）

(5)	(1)		
	タバ		ホケン
(ねる)			
(6)	(2)		
	シユヒ		シヤゼツ
(7)	(3)		
	デンショウ		スイシン
(8)	(4)		
	サンビ		タ (れ)
三			
問九		問八	
問十		問七	
二			
問一		問十	
始め		始め	
一			
間九		間八	
間五		間一	
間六		間二	
間七		間三	
間三		間四	
間四		間五	
間五		間六	
間六		間七	
間七		間三	
間三		間四	
受験番号			
氏名			
*の欄には何も書かないこと。			